

「衣と生活 Kimono and Life」かんさい・大学ミュージアム連携プロジェクト

ゴージャスとモダニズム

—船場の美意識探訪、塩野家コレクションとその周辺—

■ ミニ展示 (日時)

2019.9.24(火) - 10.18(金)

開室時間 10時30分~17時 土日祝日は閉室

ただし 10月5日(土)はシンポジウムのため特別開室

入場無料



■ ミニ展示 (場所)

大阪大学総合学術博物館

歴史展示室 (大阪大学会館3階)

■ シンポジウム 大大阪モダニズム再考

10.5(土)13:30~16:00

大阪大学アセンブリー・ホール

主催：大阪大学共創機構社学共創本部 / 総合学術博物館
武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室

共催：かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

写真左上から時計回りに 鶴描絵襦紗 (庭山耕園画)・緑地飛鶴文様打掛 (左2点 武庫川女子大学蔵)
『大阪の三越』昭和2年2月号 (個人蔵)

ゴージャスとモダニズム

— 船場の美意識探訪、塩野家コレクションとその周辺 —



きものや和装小物を身につけた生活。現代日本人の日常から忘れられつつあるライフスタイルかも知れませんが、しかし、かつて大阪は繊維の街として栄え、日本第一の経済都市として、贅沢ともいえる独自の服飾文化を誇っていました。

近畿の大学博物館が参加する「かんさい・大学ミュージアム連携」では、「衣と生活 Kimono and Life」をテーマに共同で多彩な展覧会やシンポジウムを企画していますが、大阪大学総合学術博物館では、武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室と連携して、ミニ展示とシンポジウムを開催します。

大正12(1923)年設立の塩野香料株式会社の源流は、文化4(1808)年、道修町に創業された塩野薬種問屋であり、明治41(1908)年に香料を商うようになりました。“外見は地味に”を暮らしの主旨としたという当主夫人のこぼから伺えるように、当時の暮らしを伝える塩野家コレクションからは、北船場の商家として堅実な伝統を引き継ぐ一方、明治から大正昭和初期のモダニズムの香りがたちのぼります。

ミニ展示では、ふくよかな当時の女性を髣髴とさせるゴージャスな婚礼打掛や、大阪で活躍した日本画家の森関山・庭山耕園が描いた塩野家の袱紗を中心に、品格にあふれ贅沢でモダンな船場を中心とした近代大阪の美意識を探ります。またシンポジウムでは、「大大阪」の賑わいや船場のくらし、きものの歴史や魅力について掘り下げます。



『だいまる』昭和2年7月号(個人蔵)

シンポジウム 大大阪モダニズム再考

日時：10月5日(土)13:30~16:00

会場：大阪大学アセンブリー・ホール(大阪大学会館1階)

入場無料(先着順)

プログラム

タイトル「塩野家コレクションと船場の美意識」

1. 近江晴子 (大阪天満宮文化研究所 / 船場大阪を語る会 顧問)
「船場のくらしについて思うこと」
2. 船越幹央 (地方独立行政法人大阪市博物館機構 学芸員)
「モダン大阪のおもかげ」
3. 横川公子 (武庫川女子大学名誉教授 / 附属総合ミュージアム設置準備室長)
「塩野家コレクションとその周辺」
4. 橋爪節也 (大阪大学共創機構社会学共創本部 / 総合学術博物館 教授)
「船場の画家と大阪の美意識」



山高帽とケース(武庫川女子大学蔵)



香水瓶(武庫川女子大学蔵)

総合学術博物館(待兼山修学館)常設展のご案内

(平日・土曜開館、日祝日休館)

総合学術博物館では、大阪大学の歴史や教育・研究の成果を紹介しています。

正面玄関では、迫力満点のマチカネワニ(レプリカ)がみなさんを出迎え、国の登録記念物に指定された実物化石は3階に展示中です。

オープンテラスのあるミュージアム・カフェ「坂」も併設され、ゆったりとお過ごしいただけます。

みなさんのお越しをこころよりお待ちしております。



※2019年10月1日から大阪モノレール柴原駅が柴原阪大前駅に変更になりますので、ご注意ください。



平成31年度文化庁 地域の博物館を中核としたクラスター形成事業「ようこそ大学ミュージアムへーつなく・つなげる・つながるー」かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会(事務局 関西大学博物館)

お問い合わせ：大阪大学総合学術博物館 TEL 06-6850-6284